

# 自他の生命を大切にすることを育む道徳教育の推進

■研究指定・委嘱地域(指定校)  
大野城市教育委員会(大利小学校、下大利小学校、大利中学校)

## 研究の目標

生命の尊さに係る発達段階に応じた指導方法の工夫、外部人材の効果的活用、飼育や社会貢献活動を関連させた指導を通じて、自他の生命を大切にすることを育む道徳教育の在り方を究明する。

## 研究の内容

- 視点1: 自他の生命を大切にすることを育む道徳科の授業改善
- 視点2: 生命の尊さに係る児童生徒の実態に応じた教科等横断的なカリキュラムの充実
- 視点3: 専門性を有する外部人材の活用や体験活動を取り入れた道徳教育の推進
- 視点4: 自他の生命を大切にすることを育む道徳教育を推進する組織体制づくり

## 大野城市の成果

自他の命は大切であり、  
生きることは素晴らしいこと  
です。



大利中学校区LIFEアンケート

○ 校区全体(生命について)「2 自分以外(周りの人や動物、植物)の命は大切だと思う」について、肯定的な回答をした児童生徒が**94%を上回っています**。

その他の項目における肯定的回答の例

■ 1回目(R4 5月末) ■ 2回目(R5 1月末)

1 自分の命は大切だと思う

89.6% → 94.0%

小5年生

3 学習や生活の中で、命が大切な理由が増えている

88.4% → 92.5%

小6年生

4 学習や生活の中で、生きることの素晴らしさを感じている

82.9% → 86.4%

中3年生



いろいろな人の気持ちを考える様子



命に直接触れる様子



命について話し合う様子

## 大野城市の研究ポイント

こんな教育委員会、学校におすすめ

道徳科を要として、他の教育活動と意図的・計画的に関連させた授業づくりを行おうとしている教育委員会、学校

### 視点1



子どもが、自分との関わりで道徳的諸価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための発問の工夫が、分かります。

### 視点2



教科等横断的な単元を構成するために、どのような組み合わせで単元を構成するか、どのような手順で単元をつくっていくとよいか、分かります。

### 視点3



単元の中で、どんな場面・目的で体験活動を設定したり、外部人材を活用したりするとよいか、分かります。

### 視点4



小中9年間を通して、小小連携で学びをそろえたり、小中連携で環境整備をしたりするなど、3校が連携を図り、協力しながら研究するための組織体制をどのようにすればよいか、分かります。

大野城市の実践

■ 視点1: 自他の生命を大切にすることを育てる道徳科の授業改善

子どもが自分との関わりで道徳的諸価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりすることができるように、理解を深める発問を「比較、分類、関係付け、視点変更、選択・判断、批判」の視点から整理しました。

理解を深める発問の例

比較する	「〇と△の違いは？共通点は？」	
分類する	「どんなグループ分けができる？分ける基準は？」	
関係付ける	「〇と△はどんな関係？原因は何？」	
視点をを変える	対象を変える	立場を、自分、相手、第三者へ変える。 「あなたが〇〇さんだったらどう思う？」
	時間を変える	時間を、過去、現在、未来へ変える。 「以前は、どうだっただろう？」
	条件を変える	条件や状況を変える。 「もしこうすれば、どうなるでしょう？」
	本質を問う	本質から考える。「それはどうして？」
選択・判断する	「どの考えがいちばん良いか？」	
批判する	「本当にそれで良いか？」	

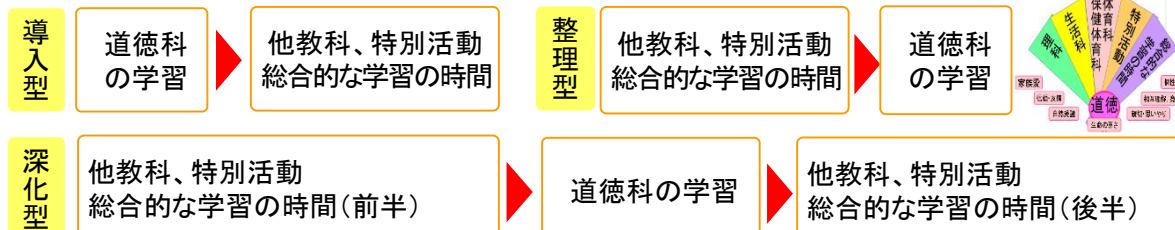
- 子どもに考えるヒントを与える。
- 視点の変換や方向付けをする。

- 議論につながる。
- 考える力を育てる。
- 一人一人の道徳性の育成につながる。



■ 視点2: 生命の尊さに係る児童生徒の実態に応じた教科等横断的なカリキュラムの充実

子どもが前後に配列された学習活動を関連付けながら学び、実感を伴った道徳的価値の理解につなげることができるように、道徳科を要とした単元構成を教科等横断的な3つの型に整理しました。

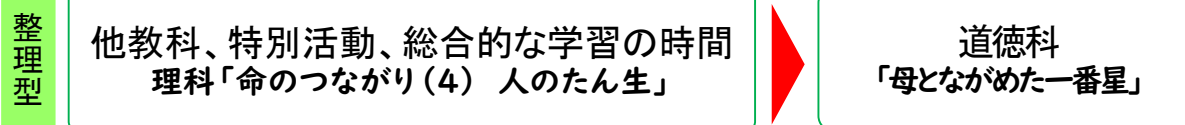


ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
子どもの実態に基づくテーマ(総合単元を貫く道徳性)を設定する。 ※学校目標やアンケート等の活用	テーマを基に、各教科等の関連の深い学習内容及び体験活動を設定する。 ※別葉の活用	各教科等の学習内容や体験活動の特質を踏まえ、「導入型」「深化型」「整理型」を設定する。 ※3つの型の活用	道徳科の教材及び指導方法について、テーマと各教科等の体験活動から吟味し、授業を構想する。 ※授業改善の視点

道徳科を要とした総合単元の構成の手順

■ 視点3: 専門性を有する外部人材の活用や体験活動を取り入れた道徳教育の推進

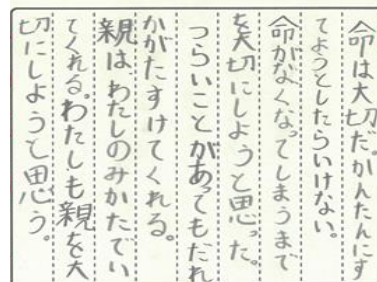
子どもが自分の体験と比べて考えたり、自他の生命の大切さの理解を深めたりしながら、実感的に学ぶことができるように、視点2で示した総合単元の各教科等の指導を、専門性を有する人の話や、体験活動を取り入れた学習で構成しました。



保育士の話聞く様子



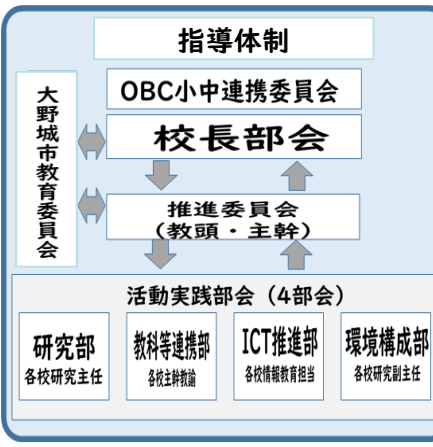
出産を終えた方の話を聞く様子



児童の感想

■ 視点4: 自他の生命を大切にすることを育てる道徳教育を推進する組織体制づくり

研究を推進していくことができるように、小中9年間を通して、小小連携で学びをそろえたり、小中連携で環境整備をしたりするなど、3校が連携を図り協働しながら研究を進めるための組織体制を構築しました。



- 部会ごとに年間計画を作成し、計画的に部会を開催し、PDCAサイクルの機能化を図る。
- 各部会には、必ず3校の教職員が在籍するようにして、各部会で決まったことを各校で実践できるようにする。
- 各部会の連携を図るために、定期的な部会代表者会を行う。



各部会の協議内容については、それぞれの担当から各校で周知を図っている。

組織体制